

6年2組

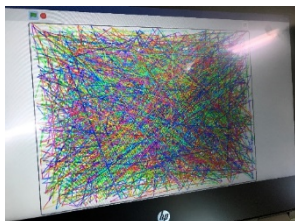
何でも自由に描けるアクションペインティング ～私が私を感じる時間～



素材の良さを感じ、味わう子どもたち ～私が生み出す様々な色～

水彩絵の具、そして色々な道具を使い、様々な自分の色を見つけてきた子どもたち。

そんな中、朝の時間にAくんが、パソコンを使い、スクラッチでいろんな色の線（赤、黄色、青、緑、ピンク、オレンジ等）を重ねていく動画を作っていました。Aくんは「先生、見て!」と言って、出来上がった動画を見せてくれました。たくさんの色が重なっていく動画の様子を一緒に見ていたBくんは「これ、最終的には真っ黒になるんじゃないの。これだけの色を混ぜたら暗くなるでしょ。」と言いました。それは、絵の具を使ってたくさん学んできた中で、色の混ぜ方によって出てくる色の色調が全く違うということを経験していたBくんだから感じたこと。AくんはそんなBくんの言葉に「いや、これは色が重なっているだけだから黒くならないよ。混ざらないから。」と返しました。「本当だ。黒くなっていかないね。芸術だ。」と言うBくん。どんどん色が重なっていく様子を楽しそうに見ていました。



Aくんが作ったスクラッチの映像。それは、いくつもの色が重ねられながら画面を覆っていくものでした。クラスでもその映像を紹介すると、「色の重なり」に芸術性を感じていた子どもたち。そんな子どもたちに、「すぐに乾いて色が混ざらないという性質」を持った“アクリル絵の具”を紹介しました。

次の図工の時間、自分達もアクリル絵の具を使ってみたいという子どもたちと実際にアクリル絵の具を味わってみました。

初めて手にするアクリル絵の具をパレットに入れるとまず匂いがかぐCくん。「先生、なんか匂いが違う」といって笑いながら話しかけてきました。その後、筆を持ち、画用紙とパレットを交互に見つめるCくん。どうしようか迷っているように見えました。近くにいたDくんが「先生、指でやってみる。」と言うと、CくんはDくんの方に目をやったあと、すぐに指に絵の具をつけて、画用紙につけ始めました。そして、アクリル絵の具をつけた指で何度か画用紙を叩いた後、指を画用紙につけたまま、じっと5秒間ほど目を閉じていました。指でアクリル絵の具を感じたCくんは、さらに筆を使い、絵の具をたっぷりつけて垂らしたり、振ったりしてアクリル絵の具を楽しんでいました。



他にも、アクリル絵の具に触れる中で、その匂い・感触・性質・道具の使い方・絵の見方など、様々なことを感じている子どもたちの姿がありました。「きれいな現状を維持できるもの」としてのアクリル絵の具を感じる子、触れること感じることそのものが心地良いアクリル絵の具として見つめる子、アクリル絵の具は失敗してももう一度色が蘇る、失敗したと思ったものが次の一手できれいなものに蘇ることを感じる子。子どもたちはアクリル絵の具という素材から様々なものを受け取り、自分の感性を広げていっているように思いました。子どもたちがそのように素材から受け取り、自己と対話をし、そして自分の中での新たな価値を生み出していくような時間をもっと一緒に味わいたいと願い、アクションペインティングに挑戦してみることにしました。

描く過程を存分に味わうアクションペインティング

図工の授業で行ったアクションペインティングは絵具をキャンバスや紙に丁寧に塗って完成させる絵画ではなく、飛び散らせたり垂らしたりした手法で作品を完成させる様式のもので、何か具体的な対象を描く、というよりは、どちらかといえば“絵を描く”という行為（アクション）そのものを重視するもので、「結果ではなく

“過程”としての芸術」とも言われています。何か具体物を描こうとすると、どうしても周りとの差が気になります。しかし、アクションペインティングのように、思いのままに、表したいものを表したいように描き、また自分の行為から自分を見つめ直し、新たな自分として色を重ねていく過程は、描いたものが自分の作品として周りとは異なるものではなく、自分の思いの痕跡として、自分だけのものとして残っていくように思います。

用意したのは90cm四方の大きな画用紙です。今まで描いたことのないような大きな紙を目の前にした子どもたちは最初とまどっていました。しかし、思い切って一筆入れてみると、そこからどんどん思いが広がっていきます。「バシッ」「バンッ」と、大きな画用紙につくアクリル絵の具の音を楽しみながらいろいろな方向から試していったEくん。全くテーマのない中でペインティングを行ったのですが、自分のつけた色から想像が膨らみ、テーマ(心)を決めていったFさん。授業中は「先生、見て!!」と自分の行為から出た色の発見を伝えてくる子がたくさんいました。それぞれの思いで描いていく過程には図画工作の魅力がたくさんつまっているように感じました。

アクリル絵の具の良さを存分に味わいながら行った今回のペインティング。片付けもみんな協力して黙々と行う姿は素晴らしかったです。最後に少しだけ絵の鑑賞。自分の絵の上に寝そべりながら「この色が好き」と語っていたGさん。他の子どもたちも、自分のアクションから生まれた色を楽しんでいました。結果だけでなく、過程を大切にしたい芸術だからこそ、ひとつひとつの“ここ”に魅力を感じたのかなと思いました。



最後のアクションペインティングを終えた日、Mさんは日記に次のように綴っていました。



今日はアクションペインティング最終章。これまでの時間で一番楽しかったのは「何でも自由に描ける」ということ。今はコロナで私たちができることが制限される中、このアクションペインティングは「私が私を感じる時間」になりました。今日描いた作品は、1枚の画用紙に2色の色分けをしました。この前やったとても大きな画用紙に描いたものは、私の気持ちが絵になりました。私の大ざっぱな性格や何かにしばられたくない自分、そしてコロナで不安な気持ち。全部が私です。

出来上がった絵からは、子どもたちの素敵な過程が感じられます。これまでのペイントを通して様々なことを感じていった子どもたちの姿はとても美しく見えました。